

ウィンブルドンの思い出

塚田 實

今年もウィンブルドン選手権が、六月二十七日からオール・イングランド・ローンテニス・クラブ（A E L T C）主催で開かれる。A E L T Cはロシアのウクライナ侵攻を理由に、ロシアとベラルーシの選手の大会参加を禁止し、これに対して男女テニス協会や国際テニス連盟は、ウィンブルドン選手権に世界ランキングのポイントを付与しないと発表した。テニスの世界も国際政治環境を映して揺れている。

二〇〇一年ロンドンに駐在していたとき、不動産会社C社から七月七日の女子ファイナル予定日に招待された。C社はセンターコートの特別席を長期契約していた。

当日は女子ファイナル（V・ウィリアムズ vs J・エナンの予定だったが、雨による順延の影響で残っていた男子の準決勝（G・イワニセビッチ vs T・ヘンマン）となった。ヘンマンには久しぶりのイギリス人の優勝が期待されていた。

当日出かけると、また雨でセンターコートはシートで覆われている。C社のA氏に誘われ、ラウンジでスコッチの水割りを飲んで歓談し、時間をつぶす。A氏は「ここに来たら、是非有名なストロベリー&クリームを食べてください」と勧める。その日の朝採取したイチゴをふんだんに使って美味しい。

雨の状況を確認に席に戻ると、場内アナウンスがあった。「皆さん少し退屈でしょうから、今から珍しいゲストにインタビューします」。ゲストは一月に退任したアメリカのクリントン前大統領だった。同氏は娘チエルシーの留学支援のため訪英していた。

いよいよ準決勝が始まる。初めて見るプロテニスの球のスピードは驚異的だった。イワニセビッチはフルセットの末ヘンマンを破り、翌々日の決勝でP・ラフターとの接戦も制した。

今年の大会は、期待の大坂なおみは足の負傷が治らず、欠場すると発表された。コナは落ち着き傾向で、大会は観客を入れて開催されるなど、世の中は日常を取り戻しつつある。スポーツも平穏な国際環境で心置きなく楽しみたいものだ。